

経済レポート

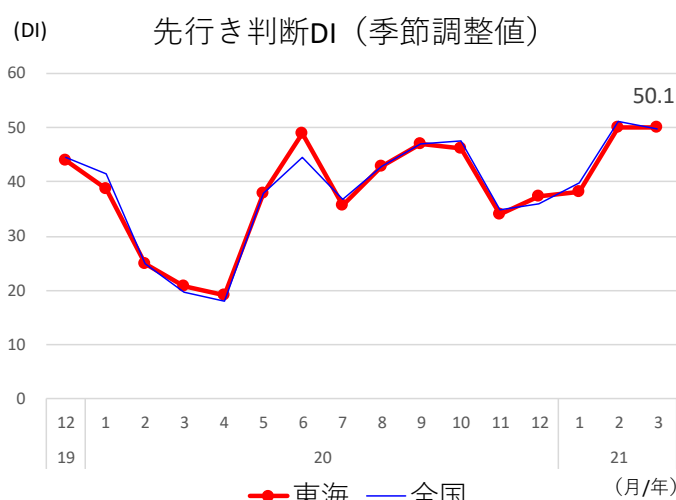
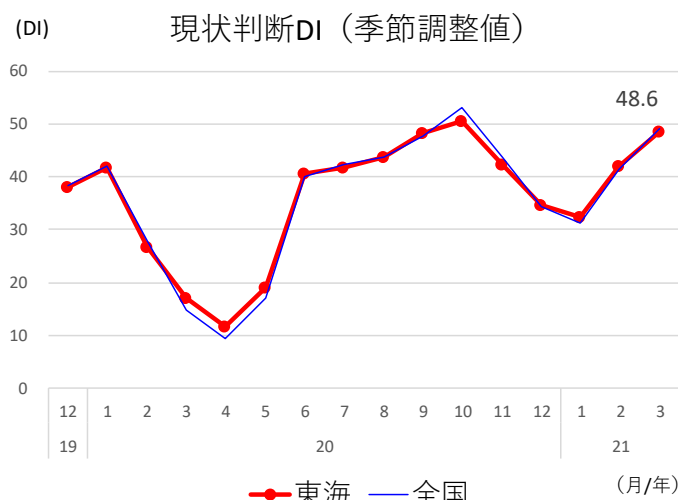
景気ウォッチャー調査(東海地区:2021年3月)

～ 緊急事態宣言解除により現状判断は改善するも、先行き判断は小幅悪化 ～

調査部 主任研究員 塚田裕昭

- 4月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の3月¹の

**現状判断DI(季節調整値)は、前月差+6.6ポイントの48.6と2ヶ月連続で上昇した。
先行き判断DI(季節調整値)は、前月差-0.1ポイントの50.1と4ヶ月ぶりに低下した。**



- 当社では、東海地区の景気ウォッチャーの見方を

新型コロナウイルス感染症の影響による厳しさは残るものの、緊急事態宣言の解除により、景況感は持ち直しの動きがみられる。先行きについては、持ち直しを見込む中、感染再拡大への懸念がみられる。

とまとめた。

(前月のまとめ)

「緊急事態宣言下で厳しい状況が続くものの、景況感は持ち直しの動きがみられる。先行きについては、緊急事態宣言解除、ワクチン接種開始への期待がみられる。」

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方を

景気は、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しさは残るものの、持ち直している。先行きについては、感染症の動向を懸念しつつも、持ち直しが続くともみている。

とまとめている。

(前月のまとめ)

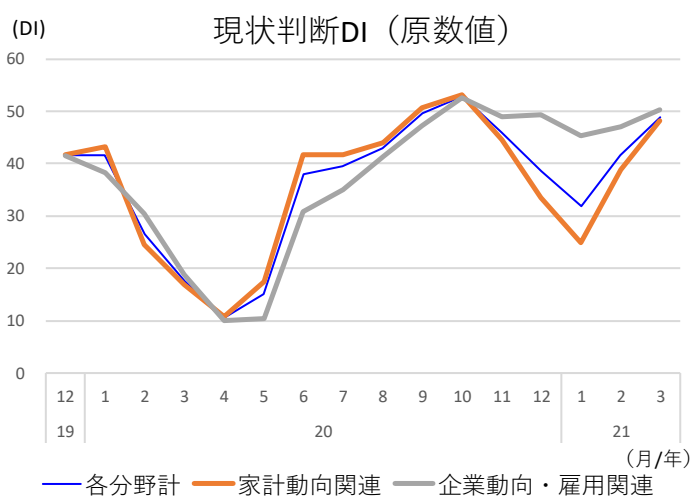
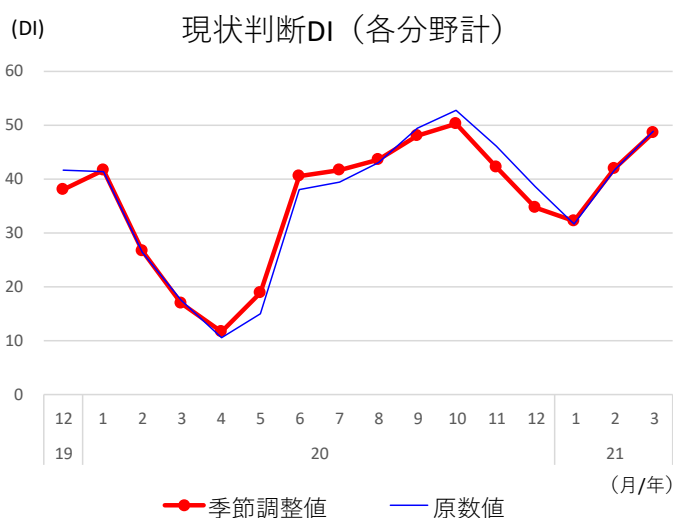
「景気は、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しさは残るものの、持ち直しの動きがみられる。先行きについては、感染症の動向を懸念しつつも、持ち直しが続くともみている。」

¹ 調査期間は毎月25日～月末

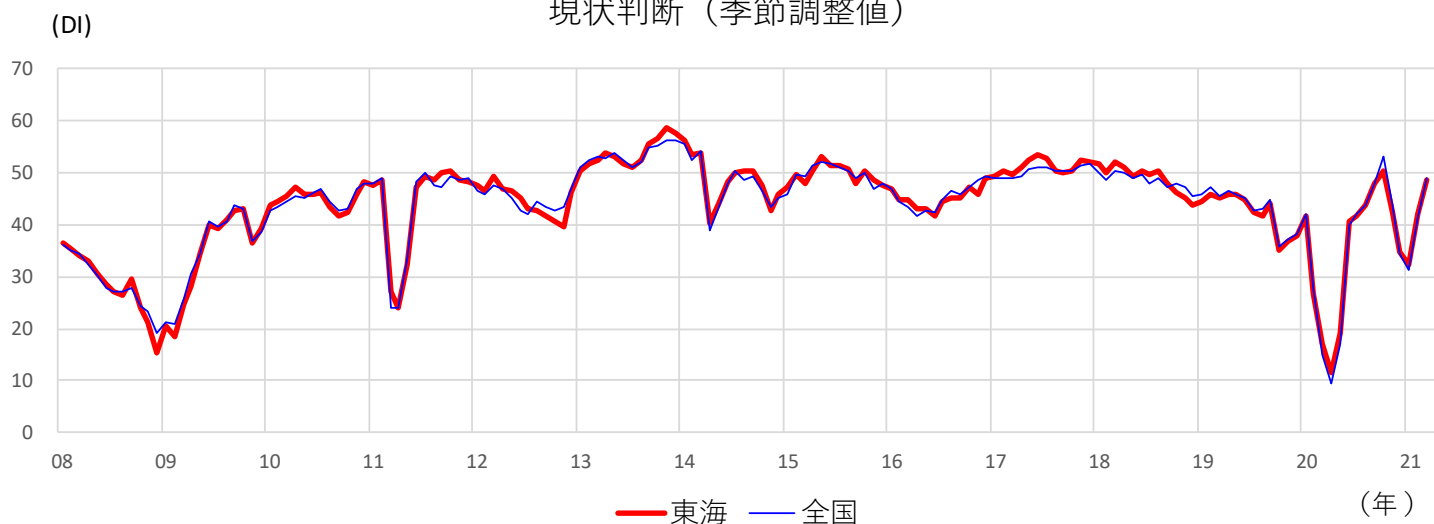
1. 景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

(1) DIの動向

- 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI²(季節調整値)は、前月差+6.6ポイントの48.6と2ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を5ヶ月連続で下回った。緊急事態宣言が解除されたことにより景況感は改善してきている。
- 部門別に見ると(原数値)、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同+9.3ポイントの48.2と2ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を5ヶ月連続で下回った。また、企業動向関連と雇用関連からなるDI³は、同+3.3ポイントの50.3と2ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を5ヶ月ぶりに上回った。



現状判断(季節調整値)



² 本調査のアンケート・サンプル総数は226、うち家計関連150、企業・雇用関連76。以下、先行き判断についても同様。

³ 企業動向関連と雇用関連からなるDI(原数値)は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

【家計動向関連】

- 緊急事態宣言が解除となり、改善方向の回答が増加した。自粛疲れ、新型コロナウイルス慣れから、客足も戻ってきたようだ

○	百貨店（経理担当）	・緊急事態宣言の解除を機に、レジャー及びビジネス共に客足が少しずつ戻りつつある。
○	コンビニ（エリア担当）	・緊急事態宣言の解除後客数が徐々に増えて、販売量が増加している。特に朝の通勤客を中心ににおにぎり、パンや飲料などの日常商品の販売量がアップしている。
○	乗用車販売店（従業員）	・客が新型コロナウイルスに慣れたのか、新型コロナウイルスの感染が落ち着いたのか不明だが、以前の正常な状態の雰囲気にならずに少しずつ戻りつつあると感じる。
○	高級レストラン（経営企画）	・2月後半より、自粛疲れからか来客数が少しずつ増加傾向にあり、更に各地で緊急事態宣言が解除されたことにより、昼夜共に来客数が増加している。客単価も上昇傾向である。
□	コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大が続くなかでも、前月と比較して来客数は前年比で4%改善している。感染は拡大しているが、新型コロナウイルス慣れのためか来店客はあり、米飯やファーストフードなど主力商品群が5~6%改善している。

- 旅行関係は、Go To キャンペーン停止が続く中で厳しい状況が続いている。

□	旅行代理店（営業担当）	・観光地では人出が増えているという報道があるが、旅行会社の利用にはつながっていない。Go To キャンペーンのインパクトが強すぎて、Go To キャンペーン停止期間の割引のない商品には魅力を感じてもらえない。
×	旅行代理店（経営者）	・Go To Travel キャンペーンも一時停止のまま、新型コロナウイルス感染者数のリバウンドのニュースや県内での変異種確認で、春休みも余り予約が増えなかった。予約があってもマイカーで行ける範囲の旅行客ばかりであった。4人以上の会食が難しいので全く団体予約も入らず、海外旅行も帰国後の2週間は待機で、利益が上がらず小規模の旅行会社には大変厳しい状況である。国内の個人旅行だけでは、更に大変厳しい経営状態が続く。

【企業動向・雇用関連】

- 企業動向関連でも、緊急事態宣言解除等により改善方向の回答が増加した。

○	食料品製造業（経営企画担当）	・緊急事態宣言が解除になり消費マインドも上昇してきているためか、商品の動きも活発化してきている。特に冷凍食品、冷凍和菓子関係の動きが良い。
○	金融業（従業員）	・自動車関連部品等及び電化製品の工場などの勤務者からは、比較的生産量も多く忙しいという声が多い。
□	輸送業（従業員）	・荷主全体として受注量は少しずつ増えてきていて、新型コロナウイルス発生以前の水準にかなり近づいている。新型コロナウイルスの影響による減少部分は、回復傾向にあるとみられる。ただし、業種によってはまだ沈んだままの荷主もある。

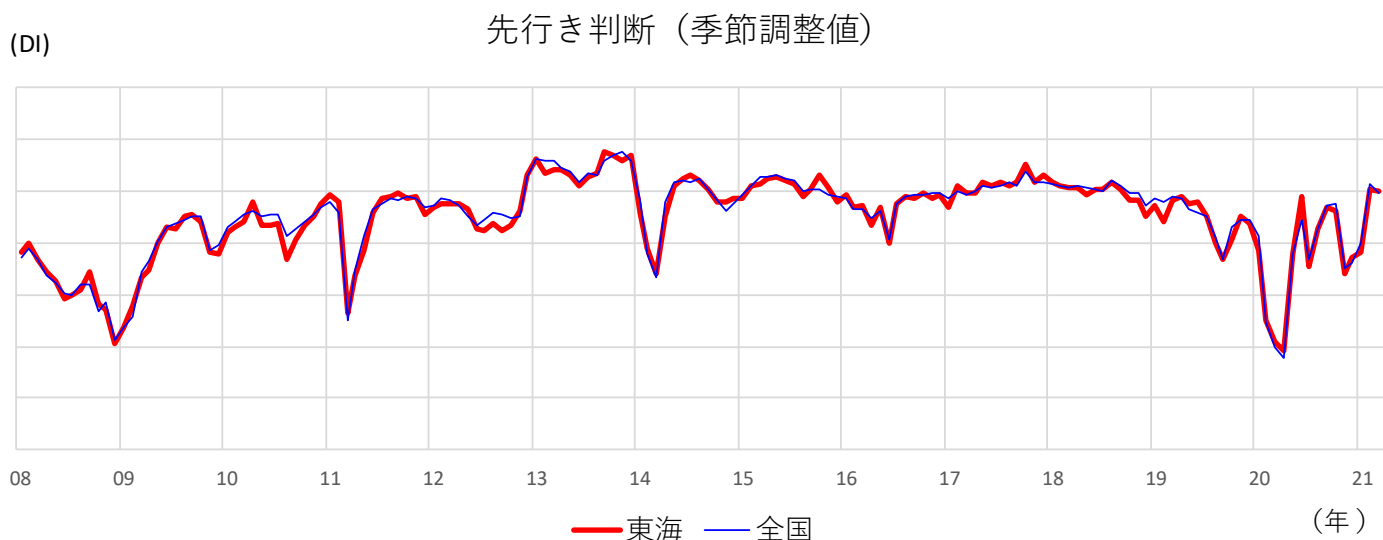
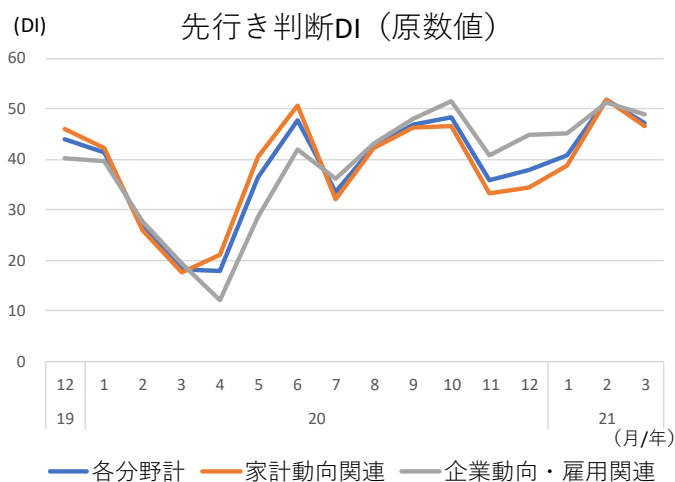
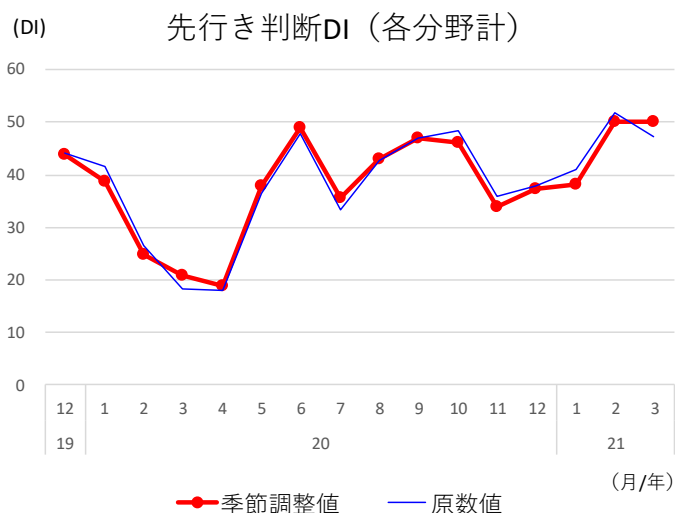
- 変異株、半導体不足等により、悪化を指摘するコメントもある。

▲	パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・最近では新型コロナウイルスの変異種も多く発生し、第4波拡大のため、全ての産業への影響が大きく景気はやや悪い。
▲	輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・生産台数が当初の予定より減産になっている。半導体不足のため、完成車の台数を余り造れなくなったことが要因である。

2. 景気の先行き判断（2～3ヶ月先の見通し、方向性）

（1）DIの動向

- 2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI（各分野計：季節調整値）は、前月差-0.1ポイントの50.1と4ヶ月ぶりに小幅低下した。新型コロナウイルス感染症再拡大など、先行きを懸念する声が増えた。
- 部門別に見ると（原数値）、家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、同-5.5ポイントの46.5と4ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を2ヶ月ぶりに下回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同-2.3ポイントの49.0と4ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を2ヶ月ぶりに下回った。



(2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎: 良くなる、○: やや良くなる、□: 変わらない、▲: やや悪くなる、×: 悪くなる

【家計動向関連】

- 新型コロナウイルス感染再拡大のほか、オリンピック前の締め付け、消費税込みの価格表示、半導体不足など、先行きについては懸念材料が多い。

▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	・東京オリンピック前で、ピリピリしているはずである。緊急事態宣言の再発出等、締め付けの強さは過去最高になっていると考える。
▲	スーパー（経営者）	・今月の売上は2～3か月前より良くなっているが、新型コロナウイルスの第4波を心配している。
▲	スーパー（販売担当）	・消費税込みの価格表示になり値上がり感が強いと、皆買い控えるのではないかと考える。
▲	乗用車販売店（経営者）	・自動車用半導体の不足による減産の影響で、新車販売台数の減少が長引く可能性が高い。
▲	旅行代理店（経営者）	・緊急事態宣言解除で人の流れが一気に増えているので、新型コロナウイルスの感染者数がまた増えるのではないかと心配。ニュースの予想グラフをみていると、今手配した旅行がキャンセルになるのではと心配である。ゴールデンウィークの予約や夏休みの予約も余り増えないので先行きも心配で、このまま店舗を維持できるか閉めるかの岐路にきている。手厚い支援金があれば安心できる。
▲	テーマパーク職員（総務担当）	・新型コロナウイルスの変異種の感染者数が増えており、リバウンドがゴールデンウィーク辺りに来ると思われる。
×	商店街（代表者）	・これから新型コロナウイルスの第4波が襲ってくると思われるため、景気は悪くなると考える。新型コロナウイルスのワクチン接種も、今秋までには行き渡らないであろうし、ましてや夏までにはほとんど進まないと考えられる。

【企業動向・雇用関連】

- デフレ懸念、新型コロナウイルス感染リバウンド、半導体不足など、企業・雇用部門でも先行き懸念を指摘する声が見られる。

□	輸送業（エリア担当）	・同業他社が随分安い単価を客に提示して荷物を取りにきている。数年前までの動きのようにならないとよいが、過去には、荷物を取り合い値段がどんどん下がってしまった。
□	会計事務所（職員）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進み感染や重症化のリスクが明らかに軽減されると実感するまでは、これまでどおりの慎重な行動を続ける人が多い。国内旅行も、Go To Travelキャンペーンの再開までは低調と考える。
□	人材派遣会社（企画統括）	・緊急事態宣言の解除後に新型コロナウイルス感染者数のリバウンドの動きも見られ、引き続き不透明感が拭えない。
▲	電気機械器具製造業（総務担当）	・通信系機器に必要なチップ部品の供給が遅れ気味で、光端末機器の仕入先から、納入時期を1年先とする注文書の発行を要求されている。半導体部品の供給不足は、今年末から来年に掛けて更に深刻な問題になるのでは、と懸念する。
▲	輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・半導体不足の問題がいつ収束するか分からないため、自動車業界では当然景気は良くなることはないと考えている。

- オリンピックに関しては、期待する声がある一方で、もはや期待できないとの声もある。

○	通信業（総務担当）	・東京オリンピックを控えて、景気上昇が期待される。新年度になり、気持ちも新たに活動が活発になると予想する。
○	化学工業（総務秘書）	・新型コロナウイルスのワクチンの普及による景気回復に期待している。東京オリンピックは、外国人旅行者を招くことができなくなってしまったため、開催できても景気に大きな好影響は期待できない。
▲	人材派遣業（営業担当）	・東京オリンピック需要はないに等しく、リスクしかみえない。

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月 25 日から月末である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）。
 - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
 - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
 - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の 3 項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
 - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
 - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1) (2) については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の 5 段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じて D I を算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、D I は 50 となるため、D I = 50 が景気の横ばいを示すこととなる。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、岐阜、静岡、愛知、三重の 4 県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府 HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。